

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	東京農工大学	整理番号	H01
プログラム名称	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設		
プログラム責任者	國見 裕久	プログラム コーディネーター	千葉 一裕
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度の採択当初より、学内規程の整備等に早々と取り組み、新専攻の設置に向けて準備を進めるなど教育プログラムの実施は順調にみえた。 しかし、平成 27 年度から本プログラムを恒常的に実施する新専攻として「食料エネルギーシステム科学専攻」をプログラム提案・採択時の学生定員 20 名から 10 名に半減した定員及び比較的少人数の教員定数で発足したことについて、中間評価において当初計画の実現への疑念、教育プログラムの持続性確保への懸念等を指摘したところである。 今回の現地視察では、本プログラム全体の進捗状況を把握するとともに、主に中間評価で指摘した留意事項に対する大学の改善策・対応策等を中心に現地視察した。 全体の進捗状況は、これまでに引き続き学長以下大学全体として本プログラムの充実と展開に意欲的に取り組んでいると評価できる。 中間評価で指摘した「新専攻に所属する教員が比較的少人数であり、かつ採択当初から本プログラムに参加していた教員がそのうちの一部に限られている点や、他専攻の教員の積極的な参加意欲をいかにして維持するのかなど、本プログラムを恒常的に実施しようとする上での懸念事項」については、リーディングプログラム担当教員として 9 名のリーディングタスクフォース、新専攻に所属する 4 名の教員を含む教員総勢 31 名が参加する「実践型人材養成拠点」を構成し、これに本プログラムにおける教授会相当の機能を付与する実施体制を取っていることは評価できる。 また、他専攻の教員の積極的な参加を担保するために、大学院生物システム応用科学府運営規則に新たに「協力教員」を制度化したことは高く評価できる。 中間評価で指摘した新専攻以外に所属する学生の実質的な本プログラム参加に係る具体策の実施については、「リーディングプログラムを修了した者の学位記に当該プログラムを修了した旨を付記する」ことや、学則条項に「学府及び研究科において編成する教育課程のほか、博士課程教育リーディングプログラムを開設する。」ことを明記するなど対応しており、大学の真摯な取組姿勢として評価できる。 中間評価で指摘した「優秀な他大学出身者および留学生の獲得方法についての検討」については、他大学出身者の入学実績は未だ十分とは言えないが全国の 20 大学間の連携や世界の先端イノベーション機関との連携を通しての一定の努力はうかがえる。 キャリア開発プログラム、実践型インターンシップ、国際研修など個別プログラムの内容は多彩であり、大学としての意欲的な取組姿勢がよく表れている。 全体として、本プログラムの趣旨への理解が、教員側にも学生側にも浸透しつつあるように見受けられた。特に支援対象学生との意見交換は有意義であった。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <p>支援期間終了後の取組として、以下 4 点について期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新専攻以外の教員の当事者意識が維持されにくくなるのではないかと、新専攻の教員の負担が過重にならないかなどが懸念されるため、本プログラムを推進する基盤となる教員人材の再生産システムの確立、確保等についても恒常的なプログラム展開が可能 			

となるように支援期間内に一層取組を進めていただきたい。

- プログラム内容と連携して国際展開に尽力していることがうかがえたが、是非継続した取組となることを期待している。
- 恒常的なプログラム展開の視点からも支援期間終了後の学生支援を大学の自主努力で継続できるよう尽力願いたい。
- 学生にとって奨励金による支援は大きなものであるが、このプログラムの支援期間終了以降も、奨励金はなくとも学生数が維持されるよう魅力的なプログラムを展開していただきたい。